

相模原マンドリン倶楽部

第 24 回定期演奏会



第 23 回定期演奏会 撮影 テスムジカ

2008 年 11 月 15 日 (土) 14:00 開演

グリーンホール相模大野 大ホール

♪ 演奏曲目 ♪

第1部

指揮：宮本 皓永

単楽章のシンフォニア

作曲 コンラート・ヴェルキ

編曲 高野 吉司

波

作曲 カルロ・グラツァーニ・ワルテル

補筆 宮本 皓永

パストラル ファンタジー

作曲 藤掛 廣幸

-----休憩 15分-----

第2部

指揮：國土 潤一 客演指揮者

組曲「展覧会の絵」

作曲 モデスト・ムソルグスキー

編曲 穴戸 秀明

- (1)プロムナード
1. こびと
- (2)プロムナード
2. 古城
- (3)プロムナード
3. チュイルリーの庭
4. ビドロ
- (4)プロムナード
5. 卵のからをつけたひなの踊り
6. サミュエル・ゴールデンベルグとシュミーレ
- (5)プロムナード
7. リモージュの市場
8. カタコンブ(ローマの墓)
- 死者とともに死者の言葉をもって
9. 鶏の足の上の小屋(バーバ・ヤーガ)
10. キエフの大門

♪ 曲目紹介 ♪

「単楽章のシンフォニア」

Sinfonie E-moll in einem Satz

コンラート・ヴェルキ

Konrad Wölki (1904~1983)

この曲は、ヴェルキが好んで作っていた管楽器、打楽器等を加えた大掛かりな作品のひとつで1929(昭和4)年に作られた。同様な作品としては、お馴染みの「序曲イ長調」「序曲嬰へ短調」「序曲ニ長調」「序曲ロ短調」「大いなる時」など多くみられる。しかし、ドイツのマンドリン界では、このような大編成オリジナル作品は1935(昭和10)年頃までが全盛期で、それ以後は古典傾向への回帰や時代の変化もあり主流から遠ざかっていったようである。一方、日本においては現在でも人気があり各団体のプログラムに載る回数も多いようである。

今回は、特にマンドリン・ギターの音を堪能していただこうと管楽器を入れずに演奏する。ひとつの主題が形を変え、姿を変え、音も変えて展開するこの曲を楽しんで下さい。

なお、原曲はフルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルンを加えて5管編成となっている。

「波」

Onde Marine

カルロ・グラツァーニ・ワルテル

Carlo Graziani Walter (1851~1927)

ベルギーのブリュッセルに生まれ、早くからイタリアに帰化し、フィレンツェに定住しマンドリン音楽最大の擁護者マルゲリータ皇后の名を冠したマンドリン合奏団の指揮者を務める傍ら、作曲家としても膨大な作品を残し、マンドリン音楽に多大な貢献をしている。本曲の出版原楽譜の表紙には、ヴェニス穏やかな海の夕焼けを背景に滑るように帰帆する舟が描かれ、波と題しても波濤ではなく極めて穏やかな海を現している。ギターの緩やかな舟唄調のリズムに乗って奏でられるメロディーは、やがてスケルツォ風の快調に変わり、マンドリンとマンドラが美しく応答する。

「パストラル ファンタジー」

Pastoral Fantasy

藤掛 廣幸

(1948~)

藤掛氏は、現代日本の代表的作曲家のひとりで、作曲したマンドリン音楽は50数曲におよび、その活躍は交響曲、オペラ、室内楽曲、合唱、吹奏楽等々あらゆるジャンルにまたがり、現在も作曲活動やシンセサイザーによる演奏活動を続けている。

この作品は1975(昭和50)年の6~7月にかけて作曲され、8月23日に初演、その年の日本マンドリン連盟主催の第1回合奏曲コンクールにおいて第2位となった。以後、全国のマンドリン団体で演奏され、現在では演奏回数200を超えるほどである。

冒頭のゆったりした主題の提示部は、これから萌え出ずる草木がイメージされ、周辺の景観や空気の匂いまでも取り囲んで何回か再現されている。大きく成長した木々はどっしりと構え、緑の葉を風に揺らしているさまが見えてくる。やがて五月(さつき)の薫風に戯れる青々とした草木はフーガの手法で各パートにより次々と表現されるうち、主題である感動的なテーマが堂々と再現され展開部を経て終曲に向かう。

「作曲中はイメージの中に、緑…初夏のみずみずしい新緑があった。聞く人に自由なイメージを膨らませて、精神的な豊かなものをもたらしてくれればと…」と作者は語っている。

組曲「展覧会の絵」

モデスト・ムソルグスキー

Pictures at an Exhibition

Modest Petrovich Moussorgsky (1839~1881)

組曲「展覧会の絵」はロシア国民楽派を代表する作曲家、モデスト・ムソルグスキーによって、1874年に作曲されたピアノ組曲。友人であった画家・建築家ヴィクトル・ハルトマンの遺作展を歩きながら、そこで見た10枚の絵の印象を音楽に仕立てたもので、ロシアにとどまらずフランス、ローマ、ポーランドなどさまざまな国の風物が描かれている。

プロムナードはムソルグスキー自身が絵と絵の間を歩く様子を表現しているといわれ、前奏曲あるいは間奏曲として5回(演奏箇所はプログラム2ページを参照ください)繰り返し登場する。主題は、5/4拍子と6/4拍子が交替して出てくる。

1. こびと

グノームとはロシア伝説の「こびと妖怪」であり、地の底に住み、奇妙な格好で動きまわるといふ。

2. 古城

中世の古城の前で、吟遊詩人が歌う情景を描いており、同じ音が低音パートで続く上に、平坦な旋律をマンドラが奏でる。

3. チュイルリーの庭

チュイルリーはパリ最大にして最古の公園であり、この公園に集まる子供達の可愛らしい口論の様子を描いている。

4. ビドロ

ビドロはポーランド語で「牛車」という意味で、冒頭のどっしりとした単調な伴奏からして印象的であり、ロシアの農民の秘めた憂鬱を描いている。

5. 卵のからをつけたひなの踊り

曲全体に渡り、ひよこの鳴き声とチョコチョコ動く様子を音の動きで描写している。

6. サミュエル・ゴールデンベルグとシュミーレ

金満で傲慢なゴールデンベルグと貧しく卑屈なシュミーレの会話を描写している。

7. リモージュの市場

リモージュはフランス中部に位置する都市で、その町の市場の賑わいを描いている。市場に集まる女性たちのおしゃべりを聞くような雰囲気曲は始まる。

8. カタコンブ(ローマの墓)

カタコンブは古代ローマ時代、キリスト教信者が葬られた墓である。各パート全音符の連続で、不気味な雰囲気が表現されている。続いて、「死者とともに死者の言葉をもって」という不気味なタイトルを持つ部分に移り、ギターソロでプロムナードのメロディーが演奏される。

9. 鶏の足の上の小屋(バーバ・ヤーガ)

バーバ・ヤーガは魔女であり、人骨の柵に囲まれて、鶏の脚の上に立つ小屋に住み、ほうきに乗って空を飛ぶ。

10. キエフの大門

小ロシア(現在のウクライナ共和国)の首都キエフはロシアに最初の統一王朝ができたときの都である。外敵を退けた記念に「黄金の門」が11世紀に建てられた。絵は1869年にハルトマンがキエフ市の門再建コンペに応募した作品で、最大の評価を受けたという。理由は定かでないが、壮麗強固な「黄金の門」は実際には建てられることなく、夢幻に終わっ

ているところが暗示的である。曲は威厳のある雰囲気が始まり、壮大な終曲に当倶楽部のパワーが全開燃焼する。

演奏会に寄せて

編曲者 宍戸 秀明

第24回定期演奏会の開催、誠にありがとうございます。また、この度は伝統ある貴楽団の演目に「展覧会の絵」を加えてくださいましたことに感謝申し上げます。

この曲は東京の楽団「ベラ・クオーレ」の依頼を受けて2002年に編曲し、国土潤一氏の指揮により演奏されました。実はその15年ほど前に別の楽団からも依頼がありましたが、お断りした経緯があります。演奏の難易度が著しく高く、しかもマンドリン合奏で演奏することが効果的だとは思えなかったのです。しかし、15年の歳月を経て、マンドリン合奏だからこそ可能な表現で音にしてみたいとの思いに至り精力的に編曲しました。

ピアノ原曲版の楽譜2版を基に、原曲をマンドリン合奏に膨らませようという考えで編曲しています。多少の特殊奏法を加えながらも、打楽器や管楽器は一切用いず、マンドリン合奏を「撥弦楽器の弦楽合奏」と位置付けた編曲にしました。原調は開放弦の使用が困難で演奏効果が上がらないので、楽曲全体を半音下げる移調を施し、終曲では原曲と異なる転調を行い、最後がト長調で高らかと響くようにしています。

演奏に際しては譜読みから合奏まで沢山の苦労があったことと推察いたします。マンドリン合奏を愛し、創造的な活動を目指すからこそその選択であったのだろうことは、新たに国土先生をお迎えしたことにも象徴されていると思いますから、楽団の湧き出でる探求心に敬服いたします。

真に創造的な活動とは、かかわる者すべてが創造する魅力に導かれて何かを得られるものと信じています。演奏会の帰り道に思わず口ずさんでしまうような幸福感を得られたなら、亡き友人の思い出のためにこの曲を書いたムソルグスキーも満足ではないでしょうか。

(2008. 9. 7)

♪ 客演指揮者紹介 ♪

国土 潤一氏のプロフィール

昭和 31 年、東京生まれ。昭和 50 年東京芸術大学音楽学部声楽科入学。昭和 54 年同大学大学院音楽研究科修士課程入学（独唱テノール専攻）。昭和 57 年同大学院修了。昭和 58 年より 62 年まで、旧西ドイツ国立デトモルト音楽大学（旧北西ドイツ音楽アカデミー）に留学。帰国後はドイツ歌曲を中心とした演奏活動の他、後進の指導、各地での合唱やマンドリン合奏を主とした指揮・指導や『音楽の友』・『レコード芸術』誌を中心とした音楽評論も行っている。

声楽をリヒャルト・ホルム、テオ・リンデンバウム、伊藤亘行、川村英司、山路芳久、松村健太郎の各氏に、ドイツ語舞台朗読法をハンス・クールマン氏に、合唱指導法を田中信昭氏に、和声法を矢代秋雄、浦田健次郎の各氏に師事。尚美学園、東京学芸大学を経て現在は武蔵野美術大学講師。出光音楽賞推薦委員。文化庁新進芸術家海外留学及び『本物の舞台芸術体験事業』採択委員、芸術祭音楽部門審査員もたびたび務める。読売新聞文化欄演奏会評を 2000 年から 2004 年まで担当。海上自衛隊音楽隊講師も務めた。合唱指揮の分野では、池辺晋一郎、クルト・マズア各氏の副指揮者として、高い評価を得た。著書多数。全国各地での講演・講習・講座・セミナー等も行っている。

♪ ご挨拶 ♪

本日はお忙しい中、第24回定期演奏会にお越し下さいまして誠に有難うございます。当倶楽部は創立33年を経過し部員も63名の規模となりました。これも皆様方のご支援があつての事と厚く御礼申し上げます。

私どもはマンドリン合奏の音を楽しみ、それぞれの楽器の和音を大切にしながら、お互いの信頼と調和を図っております。本日の演奏会において少しでもそれが発揮できればと思っています。

今回は新しく外部より指揮者を招くことにしました。技術の向上を目指すとともに、皆様に当倶楽部の新たな音楽観を味わって頂ければと思っています。指揮者と部員一同、この一年間練習を重ねて参りました。どうぞ私たちマンドリン合奏の音色をお楽しみ下さい。

部長 柳生 秀人

♪ 活動レポート ♪

- 2007年 10月28日(日) 第23回定期演奏会(グリーンホール相模大野)
- 12月 3日(土) 納会
- 2008年 3月 2日(日) 第20回大野中公民館まつり参加(相模原市立大野中公民館)
- 4月13日(日) 第27回神奈川マンドリンフェスティバル参加(横浜市栄公会堂)
- 5月24日(土) 2008年度定期総会(大野北公民館)
- 10月 4日(土) 合宿(ウェルサンピア多摩)
- ~ 5日(日)
- 10月25日(土) 強化練習(グリーンホール相模大野)
- 11月15日(土) 第24回定期演奏会(グリーンホール相模大野 大ホール)

♪ ほっと一息 相模原マンドリン倶楽部の練習風景 ♪



合宿での一休み 2008.10.5



合宿の練習風景 2008.10.5

♪ メンバーの紹介 ♪

Conductor 宮本 皓永 國土 潤一

◎トップ ○サブトップ ☆賛助出演

1st Mandolin	◎窪田成子 梅澤典子 濱地すぎの	○木田絹子 川崎紘子 舟田徳穂	饗庭裕子 中重亜由美 山崎了三	綾部文子 仁尾眞里 吉野昌重	石本友子 野沢孝広
2nd Mandolin	◎池田百合子 桑田久美子 樋口三朗 渡辺礼子	○藍澤桃子 後藤ケイ子 樋口忠雄	大野薫 田嶋稔一 藤枝春代	大場路子 長澤直子 本田博子	大矢利夫 長沼美智子 吉岡直美
Mandola	◎福谷隆治 笛木和美	○寺田美千代 峯田福代	大熊友子 宮下和子	金澤葉子	戸田節子
Mandolon-cello	◎井上昌子 宮本皓永	○錦戸民子	飯田正男	市川久美子	小澤健二郎
Guitar	◎中西茂樹 長沢久美 柳生秀人	○和田真紀子 新田美佐子 吉田真紀子	池上由子 原田 治	加登文子 比良 勤	田中厚子 宮本紀子
Contrabass	◎錦戸雅子	○鈴木保彦	☆佐藤文俊		
Percussion	☆野島充恵	☆小川裕佳			
司会	☆矢崎ひとみ				
ステージ・マネージャー	野沢孝広	☆坂井和彦			

部長	柳生秀人				
マネージャー	仁尾眞里	峯田福代	金澤葉子	中重亜由美	
技術委員長	福谷隆治				
技術副委員長	中西茂樹				

♪ 第25回(2009年)定期演奏会のご案内 ♪

日時会場 2009年9月19日(土) 川崎市麻生市民会館 大ホール
指 揮 宮本皓永 國土潤一
曲 目 組曲「エジプトの幻影」(ミケーリ)
弦楽セレナーデ(ドヴォルザーク) 他
(詳細は下記ホームページにてお知らせします)

相模原マンドリン倶楽部 連絡先 柳生 秀人
ホームページ <http://www.geocities.jp/sagamiharamc/>